

 プロジェクトに関する提案 2015

津軽海峡交流圏の

未来を変える

挑戦



概要版

平成28年3月

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

はじめに

北海道新幹線が開業し、津軽海峡交流圏時代が始まりました。「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」(以下「ラムダ作戦会議」)はこの幕開けに向けて、今すぐすべきこと、開業までにすべきこと、中長期的視点ですべきことについて真剣に話し合い、提案を行ってきました。

この提案集の概要版は、北海道新幹線開業を契機とし、津軽海峡交流圏形成を目指す取組「λ(ラムダ)プロジェクト」を推進するエンジン役として、民間委員で構成する「ラムダ作戦会議」がまとめたもので、平成27年度の提案集概要版となります。

これまでの提案を振り返ってみると、実に様々な提案がなされ、実行されてきたといえます。ラムダ作戦会議のメンバーには「自ら汗をかく」という掟があります。この掟に沿って、各メンバーは提案を行うだけでなく、それぞれの分野で活動を行ってきました。たとえば、「青森県津軽海峡交流圏公開生バトルIN函館」「津軽海峡マグロ女子会発足」など、メンバーが汗をかき、進めてきた活動です。

また、ラムダ作戦会議のメンバーだけが汗を流しているわけではありません。提案集の後半部分では、圏内の企業や団体、行政における取り組みを紹介しています。この提案集は、すべてをラムダ作戦会議のメンバーが実行することを目指して発表しているものではなく、この提案集を読んだ圏民が、ここからヒントを得て自らの活動を起こすきっかけ作りになればという思いで作成しました。その思いが通じているのか、メンバー以外の活動においても津軽海峡を超えた活動が活発になっています。

人々の意識を変えることは難しいですが、あることに意識を向けさせることにより、なんらかの変化を生み出すことは可能です。ラムダ作戦会議を通じ、津軽海峡交流圏形成による地域の未来を提示することにより、確実に圏民の意識は変わってきたと考えています。津軽海峡交流圏を意識すれば、情報の交換が始まり、人々の行き来が始まります。それに伴い、モノも、経済も動きます。こうして交流圏が形成されるのです。

冒頭で述べたように、北海道新幹線開業は津軽海峡交流圏時代の幕開けを意味します。そしてそれは、ゴールにたどり着いたということの意味するのではなく、ようやくスタート地点に立てたということの意味しています。つまり、これからが本番です。この提案集が今後も活用され、本格的な津軽海峡交流圏時代の到来につながることを期待しています。

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

議長 森 樹 男

Index

1

λ(ラムダ)プロジェクト 03

2

青森県津軽海峡交流圏
ラムダ作戦会議の概要 04

3

ラムダ作戦会議
からの提案 05

- 平成27年度の提案
- ・平成26年度提案一覧表
- ・平成25年度提案一覧表

4

津軽海峡交流圏
形成につながる取組事例 11

- ラムダ作戦会議及び委員・アドバイザーの取組事例
 - 食産業に関する主な連携事例
- (参考)津軽海峡交流圏形成に関連する主な取組事例
- ・平成27年度の取組事例
 - ・平成26年度までの取組事例

1

λ (ラムダ) プロジェクト

2016年3月26日、北海道新幹線が開業しました！

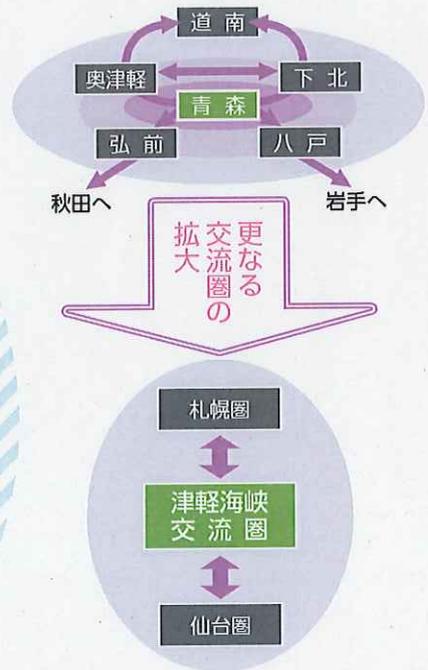
青森・函館間は特急列車で約2時間かかっていましたが、新幹線の開業で、新青森・新函館北斗間が最速61分で結ばれることになりました。

北海道新幹線開業により、両地域の時間距離は大幅に短縮されることから、こうした将来の姿を見据え、青森県と道南地域とを一つの圏域とする「津軽海峡交流圏」の形成を進めるため、「λ (ラムダ) プロジェクト」に取り組んでいます。

プロジェクト名は、新函館北斗駅から新青森駅を通過して八戸駅への新幹線のルートと、新青森駅から弘前駅への奥羽本線のルートの形が、ギリシャ文字のλ (ラムダ) に見立てることができることに由来します。

人口規模では札幌圏や仙台圏にほぼ匹敵し、地理的にも両圏域のちょうど真ん中に位置する「津軽海峡交流圏」の形成を目指していきます。

津軽海峡交流圏の形成



可能性

- 北海道新幹線開業は、観光、経済、医療、教育、文化など様々な分野に開業効果が波及する可能性を持つ、北海道と青森県に共通する**ビッグチャンス**
- 青森県と道南地域は、地理的・歴史的・文化的に**つながり**のある地域

λ (ラムダ) プロジェクトの推進

目指す姿

- 青森県と道南地域とを一つの圏域とする「津軽海峡交流圏」の形成を進め、
- ①圏域内の交流の活発化、
 - ②圏域外からの交流人口の拡大と滞留時間の質的・量的拡大を図っていく。

2

青森県津軽海峡交流圏 ラムダ作戦会議の概要

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議(以下「ラムダ作戦会議」)は、現場で様々な成功事例を生み出し活躍している民間委員22名で構成しています。

これまでにない新たな視点で、交流圏形成に向けたアイデアを提案しており、「λ(ラムダ)プロジェクト」のエンジン役となっています。

併せて、委員自らが、自らのフィールドで津軽海峡交流圏の形成に向けた活動に汗をかくこととしています。

青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議委員(22名)

(五十音順)

所 属	職 名	氏 名	備 考
跡見学園女子大学	教授	磯 貝 政 弘	
NPO法人 かなぎ元気倶楽部	専務理事	伊 藤 一 弘	
J R 東日本青森支店	支店長	江刺家 昭 彦	H26.6.27就任
八戸学院大学	学長	大 谷 真 樹	
モズデザイン		尾 崎 伸 行	
八戸観光コンベンション協会	観光コーディネーター	木 村 聡	
マインドシェア	地域づくりプロデューサー	木 谷 敏 雄	
あおりSEIAN	代表取締役	後 藤 清 安	
弘前観光コンベンション協会	事務局長	坂 本 崇	
あおり観光デザイン会議		佐 藤 大 介	
ぶらっと下北	代表	島 康 子	
青森商工会議所	地域振興部長	鈴 木 匡	
また旅くらぶ	主宰	高 木 まゆみ	
The企画エルサーチ	専務取締役	対 馬 逸 子	
リングミュージック	マネージャー	樋 川 由佳子	
じゃらんリサーチセンター	エグゼクティブプロデューサー	ヒ 口 中 田	
ツガルサイコー	専務取締役	福 士 拓 弥	
NPO法人 ACTY	理事長	町 田 直 子	
フリープランナー		三津谷 あゆみ	
J R 東日本	総合企画本部品川・大規模開発部担当部長(品川)	本 宮 彰	
弘前大学人文学部	教授	森 樹 男	
紀行作家		山 内 史 子	

平成25年3月26日～平成26年6月26日 向久保文一氏 在任

アドバイザー(2名)

(五十音順)

所 属	職 名	氏 名	備 考
日本経済研究所	調査局長 兼 地域未来研究センター副局長	大 西 達 也	
日本銀行青森支店	支店長	山 口 智 之	H26.7.4就任

平成25年3月26日～平成26年7月3日 宮下 俊郎氏 在任

【メンバーの掟】とは？

ラムダ作戦会議では、【メンバーの掟】と呼ばれるルールが存在します。

- ①青森県を元気にしたいという熱い想いがある
- ②前向きである
- ③面白いことが好きである
- ④自ら汗をかく
- ⑤交流圏形成の頭脳である

提案はどのように生かされるのか？

県内では、副知事をトップとする各部長及び地域県民局長による「津軽海峡交流圏形成促進庁内会議」を設置し、ラムダ作戦会議の提案を参考に県の取組へ反映させています。

また、市町村や関係団体にも情報提供するとともに、ホームページ等にも掲載して、市町村や民間の取組にも生かしてもらうよう働きかけています。

3

ラムダ作戦会議からの提案

ラムダ作戦会議では、平成25年から津軽海峡交流圏の形成に向けた様々なアイデアによる提案を行っています。これらの提案は、県のみならず、市町村や関係団体、民間の活動のヒントとしても活用していただくよう働きかけているものです。

ここでは、平成27年度の提案の概要を紹介します。また、平成26年度以前の提案は一覧を掲載していますが、詳細は県庁ホームページから確認できます。

平成27年度の提案

1 マグ女が勝手に、青函泊覧会(略して、マグ女のセイカン)

津軽海峡マグロ女子会がそれぞれのフィールドでおもてなし企画を同時多発的に実施。訪れたお客さんがマグロのように津軽海峡圏を回遊してくれるのでは？

エリア内の「どこかで」「なにかを」やっているように企画・プログラムを集積することで津軽海峡圏を面の観光エリアにするとともに、マグロ女子の図抜けた発信力・行動力を生かして全国的な話題づくりを行い、昭和63年の「青函博」のように、いま再び津軽海峡圏の一体感を生み出す。

提案が具体化された事例

平成28年10～11月に「マグ女のセイカン♡博(感じる旅い)」を開催予定(11ページ参照)



2 どこでも、誰でもできる“おもてなし”地域住民が参加する「おもてなし短冊」で旅行者を熱烈歓迎&地域のおもてなし力向上作戦

イベントや大規模な会議などで旅行者が訪れる機会を活用して、駅や商店街などに「おもてなし短冊」を掲示する。

住民が気軽に旅行者のおもてなしに参加できる企画を実施することで、地域のイメージアップにつながる。住民にとっては今後の“おもてなし”精神を醸成する機会を創出することで、普段から何気なくできる“おもてなし”を定着させ、将来的には“おもてなし”の企画ができるような人材の育成にもつなげる。

提案が具体化された事例

平成27年9月の「日本青年会議所全国大会」や10月の「B-1グランプリin十和田」でおもてなし短冊を掲示



3 演歌で巡る 津軽海峡圏

津軽海峡圏は数多くの歌の舞台となっており、多くの方に親しまれているとともに、日本を代表する演歌歌手が誕生している。

こうした歌の舞台となった風景や歌手のゆかりの地などを巡る旅は全国に発信しやすく、いくつかの歌をつないで津軽海峡圏を巡ることができる。

旅行者にとっては、実際に歌手に会えなくても、親戚や友人などから話を聞いたり、行きつけのお店を紹介してもらうことなども旅の楽しみとなる。



4 これぞ青森！ 青空に近づこうプロジェクト

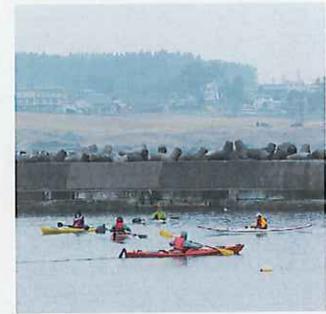
指定するエリア全体をブランド化し、そのエリア内では健康的な環境の提供、運動、食を通して意識向上を図ることができるライフスタイルを用意する。

地域住民の健康リテラシーの向上を図ることにより、エリア内での生活・体験が健康リテラシーの向上、健康・美容効果につながっていく。

このモデルが県内全域に波及し、エリアごとに特色のある健康ライフスタイルにつなげる。

提案が具体化された事例

種差海岸などでの着地型体験ツアーを実施(12ページ参照)



5 神秘の森に眠る産業近代化遺産の記憶とツーリズムの連携へ

津軽半島に共通する地域DNAは「青森ひばの森」と「旧津軽森林鉄道」の記憶であり、それを地域づくりと効果的に結び付けることで滞在交流型の観光が成り立つと考えている。津軽半島各地に残る森林鉄道の遺構やひばの森をピックアップし、それらの場所を周遊させる手段としてトレイルルートの可能性を調査し、整備していく。

提案が具体化された事例

青森ひば林と森林鉄道軌道跡を舞台としたトレッキングコース全8セッションを設定(13ページ参照)



6 県内医療機関への先進医療機器の導入

全国にも数少ない先進医療施設は、その所在地に関わらず全国の患者に求められるものであり、青森県に先進医療機器を導入することは、その治療を求める患者や家族を全国から迎えることができる。

また、先進医療機器の導入により、県を訪れる人員の増加だけでなく、健康長寿をめざす青森県にとっても有意義と考える。



7 青森ひばセラピーのススメ ～ 新たなヘルスケア産業の創出へ ～

青森ひば林のトレッキングルートを活用した「健康増進」「癒し」をテーマとしたプログラムを展開し、津軽半島のみならず、下北半島や檜山地方にも展開する。

まずは地域住民が積極的に参加し、青森ひばへの愛着と誇りを持ち、様々な地域から交流客が訪れるという流れを作りたい。食や温泉、運動療法などを組み合わせたプログラム創出により、新たなヘルスケア産業創出をめざす。

提案が具体化された事例

平成27年度「下北自然体験コーディネーター育成塾」において「津軽海峡ヒバサミット」の開催や「蘇りのサプリ【葉研郷】」をテーマとしたプログラム開発を実施(12ページ参照)



8 自由自在・青森の自然満喫！PART II ～ 体験編 ～

旬の果物・野菜など、青森の魅力的な素材を生かして、自然を満喫できる「自由散策」に「食」に関する体験プログラムを加えることで、地域の新たな発見や地元の人との交流が深まり、訪れた方たちに充実感を持ってもらうことができる。

できれば短時間でできるプログラムをたくさん用意し、空いた時間を埋めることが出来るので、それらをスムーズに体験できるシステムを作り上げる。



9 ショートムービー「ヒバの樹海」の制作・配信

北海道新幹線の沿線である津軽半島、道南地域や、下北半島にはヒバが多く生息していることから、ヒバの特性を青森に生きる人と重ね、その魅力を引き出すようなショートムービーを作成し、沿線からは見えない自然の美しさをPRするとともに、自然も新幹線の沿線で繋がっているということを青森と道南で生活する人に認識してもらう。



10 歌でつなぐ津軽海峡プロジェクト

デジタルが主流の今、あえてアナログな交流を通して心をつなぐプロジェクトとして、子どもたちから集めた手紙やメッセージをもとに、テーマソングを作る。

青森側から道南側の子どもたちへ、自分たちの住むところの人・もの・ことの自慢を中心に手紙を書いてもらい、道南の子どもたちにも同じように返事を書いてもらい、それらの手紙の中からのいい言葉を拾い集め、歌詞を作る。



11 新幹線もいいけど、在来線もね！

青森県には、JR線以外にも私鉄・廃線になった鉄道の列車や駅舎等が保存されるなど、バラエティ豊かな鉄道資源が数多くあることから、これらを観光資源として活用し、旅行者の滞在時間を延ばし、県内での飲食・土産物の売上も伸ばす。

「あおもり旅鉄・モデルプラン」の一般募集や、「ラムダ駅弁(仮称)」発売などについて検討する。



12 来て！見て！暮らして！ 津軽海峡交流圏ロングホームステイ

圏外からの大学生たちが津軽海峡交流圏で過ごす4年間はロングホームステイと捉えられることから、この期間内にとことん津軽海峡交流圏の魅力を伝え、ファンにしてみたい。域外へのアピールとして、仙台や北関東での青森・函館合同大学説明会の開催等を行うとともに、域内の魅力向上事業として、青森と函館の学生との学術的交流などを行う。

提案が具体化された事例

平成27年度の弘前大学「オール青森で取り組む『地域創生人材』育成・定着事業」が文部科学省の「COC+」に採択



13 津軽海峡圏ぐるりゆるりの飲み旅ガイド

道中でお酒を飲めるのは、電車旅の魅力のひとつであることから、酒や特産品の紹介を行うとともに、新幹線を軸とした旅のオススメルートの提案を行う。また、公共交通機関の本数や手段が限られたエリアでは、飲食しながら「ゆるり待つ楽しみ」へと導く発想の転換や、飲食店の有無にかかわらず、自然や情緒ある景色を肴に飲むという方法もある。

提案が具体化された事例

平成28年度に青森県と北海道との共同事業により「周遊ガイドブック」を作成予定



平成26年度提案一覧表



テーマ	タイトル
津軽海峡	① 毎日どこかでバトルが勃発する熱い地域・津軽海峡交流圏
	② 津軽海峡といえば、マグロだべさ。マグロで徹底バトル！
	③ 圏民ショー！みんなでやれば怖くない。
	④ 歌でつなぐ津軽海峡プロジェクト
	⑤ MY FIRST AOMORI & HAKODATE ～ 初めて訪れる外国人にも日本人にも満足してもらえる「鉄板」コースの設定～
	⑥ 津軽海峡でJAPAN！
	⑦ 求む！津軽海峡交流圏「鉄旅」プラン
	⑧ トモダチ100人できるかな！
	⑨ 函青(感性)を活かした海峡ブランド商品づくり
	⑩ 津軽海峡で生物境界線を感じよう
	⑪ そもそも「津軽海峡交流圏」ってなあに？
	⑫ 縄文人は津軽海峡を泳いだの！？
	⑬ 津軽海峡交流圏のシンボルは何？
奥津軽	① 奥津軽 明日はひとつになろう！
	② 奥津軽いまべつ駅に降りたくなくなるわけをみんなで妄想・実現しよう！
	③ 五感で味わおう奥津軽の自然と風
	④ 自由自在、青森の自然満喫！
	⑤ “青森流遊び心=青森流幸福論”による観光と物づくり：青森ひばの森と生きる
健康	① クアオルト(健康保養地)づくり 「青森の自然・温泉・食」×「最新ドイツ式ウォーキング」×「健康保養地としての地域づくり」
	② 今は短命県だけど！もっと健康になれる青森！
青森県らしさ	① もっとエバろう青森県！アオモリセールスマン増産プロジェクト
	② 絶対的に青森に行きたくなる理由づくりプロジェクト
	③ 「らしさ」を磨こう

平成25年度提案一覧表

目標 (1) 青森県内の交流の活発化

プロジェクト ㊦ 滞留時間の拡大

速やかに	開業までに	中長期的視点
【自然】青森ひばで感動づくり	【コンテンツ】ターゲットを意識した商品開発、プロモーション	【自然・医療】クアオルト(健康保養地)づくり
【自然】自然を生かした遊びづくり	【もてなし】交通アクセスの不便さを楽しみに変える仕掛け	【食】ザ・ご当地グルメ100プロジェクト2020
【自然】キャンプで賑わう奥津軽いまべつ駅周辺づくり	【賑わい】鉄道路線毎の体験プログラムの作成・商品化	【もてなし】津軽海峡バリアフリーツアーセンター(仮称)の開設
【食】どれがお好み? 食のコース対決	【賑わい】100人のよそ者による地元の気づきおこし	【もてなし】古民家活用による宿泊場所の拡大
【もてなし】看板だけの美術館	【もてなし】地元民と交流できるマッチングサイトづくり	
【もてなし】+1運動	【もてなし】奥津軽いまべつ駅の名物づくり	
【もてなし】個人移動者をターゲットとした代表的なルートの作成	【もてなし】奥津軽いまべつ駅を降りた人を徹底的におもてなし	
【賑わい】津軽V.S南部にそろそろ決着・綱引き大合戦	【移動】フェリーの積極的活用	
【賑わい】津軽・下北半島満喫女子グルメライド	【移動】バス、タクシー、レンタカーを利用しやすくする	
【賑わい】海峡ソングの制作～津軽海峡・冬景色に続け	【移動】レンタサイクルの充実	
【賑わい】津軽今別駅に特急を臨時停車してもらう仕掛け		
【賑わい】奥津軽いまべつ駅を「みんなの駅」にする仕掛け		

プロジェクト ㊧ 一体感の醸成

速やかに	開業までに	中長期的視点
青森らしさを整理するためのポテンシャルブックの作成	県の政策を積極的にPRする条例の制定	雪プロジェクトの推進
シンボル資源を再認識する場づくり	青森県版三都物語の提案	
青森県版聞き書き甲子園の実施		
県民参加型CM映像等の制作		
100人以上でワールドカフェミーティング		
県民が県内を知る仕組み、きっかけづくり		
ラムダシンボルマークの制作		

目標 (2) 圏域内の交流の活発化

プロジェクト 北海道との連携

速やかに	開業までに	中長期的視点
津軽海峡を挟んで同世代がつながる仕組み	海峡に着目したイベントの推進	
	青森県と道南との交通機関等の連携	
	クーリング等の商品開発	
	船上アウトレットモールの開発	

目標 (3) 津軽海峡交流圏の認知度向上

プロジェクト 交流圏の情報発信

速やかに	開業までに	中長期的視点
マグロー女子バトル勃発	子ども向けテレビ番組の制作(イカール星人VSマグロー)	国際競技の開催(トリアスロンなど)
作家や文化人を活用した情報発信	津軽海峡交流圏をエリアとした情報誌の制作	
津軽海峡交流圏の地図の制作	世界の海峡圏との連携体制の構築	
新幹線の路線愛称「青函新幹線」の制定		

4

津軽海峡交流圏形成につながる取組事例

津軽海峡交流圏の形成に向けた入(ラムダ)プロジェクトに関する取組事例を紹介します。

ここでは、ラムダ作戦会議及び委員・アドバイザーの取組事例とともに、民間での様々な取組の中から食産業に関する主な連携事例を紹介します。

なお、これらの取組を含め、津軽海峡交流圏形成に関連する主な取組事例については15ページ以降に掲載していますが、詳細は県庁ホームページから確認できます。

ラムダ作戦会議及び委員・アドバイザーの取組事例

1 「津軽海峡交流圏公開生バトルIN函館」の開催 (ラムダ作戦会議・交流圏イメージづくりチームの提案)

平成27年3月14日、青森県と道南地域のご当地グルメ・方言・ゆるキャラなど、それぞれの魅力をバトル形式でPRし、聴衆の方に判定してもらったイベントを函館市の五稜郭タワー1階アトリウムで開催しました。



2 「(仮称)ラムダカフェ」設置の検討(ラムダ作戦会議・交流圏創造チームの提案)

県内への観光者や旅行者が気軽に立ち寄ることができ、地元の情報提供を受けることができる駅近郊の親切的な個店を「(仮称)ラムダカフェ」と呼び、それらのネットワークを形成することで、旅行者等に県内(将来的には津軽海峡交流圏)の周遊を促すことを検討しています。



3 津軽海峡マグロ女子会「マグ女のセイカン♡博(感じる旅い)」 (島康子委員・高木まゆみ委員・三津谷あゆみ委員)

「津軽海峡マグロ女子会(マグ女)」が、観光体験プログラムを企画し、津軽海峡圏の周遊観光を促進するため、平成28年10～11月に「マグ女のセイカン♡博(感じる旅い)」を開催します。

約40種類のプログラムを用意し、一部プログラムは「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」に合わせて前倒しで実施する予定です。



4 種差海岸などでの着地型体験ツアー(町田直子委員)

三陸復興国立公園内の種差海岸天然芝生地での優雅な朝食タイム、漁港での漁師鍋ランチ、夜の種差海岸で極上のBBQなど、地元に住む方々の人情や、その土地ならではの自然環境、郷土の歴史や文化を体感できる体験型ツアーを企画・実施しています。

今後は、これらのコンテンツを国内外問わず発信し、受入を行います。



5 津軽海峡ヒバサミットの開催(伊藤一弘委員・木谷敏雄委員)

津軽、下北、渡島檜山地方の地域づくり団体が手を結んで「津軽海峡ヒバサミット」を実施しています。

平成26年度の風間浦村を皮切りに、平成27年度には江差町で開催して大きな成果を上げました。平成28年度は五所川原市金木町を主会場として実施する予定で、青森ヒバによる交流をさらに加速させていきます。



6 「蘇りのサプリ『薬研郷』」をテーマとしたプログラム開発(木谷敏雄委員)

下北半島薬研エリアを対象に、下北自然体験コーディネーター育成塾にて「健康増進」「癒し」をテーマとしたコンテンツ開発を実施しました。

薬研郷の資源である青森ひば林×温泉×地産地消の食を掘り起こし、「蘇りのサプリ『薬研郷』」をテーマにプログラム開発。人材育成、モニターツアーを実施し、パンフレット制作を行いました。



7 「地域開発」特集号を発行(大西達也アドバイザー)

地域開発総合誌「地域開発2016年1月号」において、「新時代の津軽海峡交流圏の構築に向けて～新幹線がつなぐ地域～」をテーマに、ラムダ作戦会議メンバーを含め、北海道新幹線がつなぐ青森県全域と道南地域から選ばれた産学官民の執筆陣が、同地域での新たな交流・連携に向けた取り組みを紹介した特集号を企画・発行しました。



8 λ(ラムダ)プロジェクトシンボルキャラクター「マギユロウ」の誕生(尾崎伸行委員)

λ(ラムダ)プロジェクトを進め、盛り上げていくためのシンボルキャラクターとして「マギユロウ」が誕生。県では、オリジナルグッズの製作や行事・イベント等への着ぐるみ派遣などを実施中です。

また、λ(ラムダ)プロジェクトの協賛企業・団体等を募集し、「マギユロウ」のデザインを使用していただいています。



9 奥津軽 明日はひとつになろう！(伊藤一弘委員・木谷敏雄委員)

平成25年より「ひばの香り高い奥津軽エコツーリズム」を提唱。平成27年度は森林鉄道遺構調査により「奥津軽トレイル」は8セクション117kmのコースを設定。「ゆつたど あさぐべ」(ゆつくり歩こう!)をキャッチフレーズに津軽半島全域をカバーし、ガイド養成、トレイル弁当開発なども実施し、奥津軽いまべつ駅開業を契機とした観光コンテンツが出来ました。



10 津軽海峡でつながる文化・芸能交流(高木まゆみ委員)

道南地域とつながる観光ルートの構築のため、観光事業者・関係者を招きモニターツアーを実施しました。佐井村と北海道江差町の交流が活発となり、福浦歌舞伎の上演会で江差町の郷土芸能を同舞台で披露したり、函館の旅行会社と連携して、歌舞伎鑑賞ツアーを企画し、函館発着の一般募集ツアーを実施しました。

津軽海峡でつながる文化・芸能交流(北海道江差町と青森県佐井村)



11 りんご娘によるテレビ・ラジオ等での情報発信等(樋川由佳子委員)

青森朝日放送の番組と青森県広報ウェブコミュニケーションTV「A-stream」とのコラボによる「奥津軽いまべつ駅」の探索等を通じた今別町の魅力の再発見、NHK「青函ラジオ～津軽海峡・春景色2015～」での青函対決による情報発信、さくら野弘前店で行われた北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業に向けての応援メッセージの参加等を行いました。



12 青森県の新・ご当地グルメが続々デビュー！(ヒロ中田委員)

平成25年6月デビューの青森県初の新・ご当地グルメ「深浦マグロステーキ丼」に続き、平成27年3月には「平内ホタテ活御膳」、同年7月には「中泊メバルの刺身と煮付け膳」、さらに、平成28年3月には県内4番目の新・ご当地グルメ「田子ガーリックステーキごはん」がデビュー。



13 圏域内の学生の交流等(森樹男委員)

北海道総合政策部交通政策局新幹線推進室主催の新幹線ドミノ大会に、青森大学と弘前大学の学生6名が参加しました。また、キャンパスコンソーシアム函館が主催する「HAKODATEアカデミックリンク2014」に学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムの学生委員会「いてしまい」が参加し、弘前の魅力のアピールや函館の学生たちとの交流を深めました。



食産業に関する主な連携事例

1

カシスガレット …ウィーン菓子シュトラウス(青森市)

北海道乳業(函館市)のクリームチーズと青森市のカシスを組み合わせた商品。



2

特別純米酒「ガスバリ」 …六花酒造(弘前市)

函館市の「クラブ・ガストロノミー・バリアドス(ガスバリ)」との連携による道南産の復刻米「マツマエ」を使った商品。



3

青森りんごとマスカルポーネの フルーツスープ …三浦醸造(青森市)

青森県産りんごに北海道産マスカルポーネチーズを加えた商品。



4

金森レンガ倉庫のキャラメルガトー …ラグノオささき(弘前市)

弘前・函館の両商工会議所のビジネスマッチングをきっかけに開発・製造。



5

青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」 …松栄堂(青森市)

青森商業高校の生徒との共同開発で、青森市のカシスと道南のチーズを使用した商品。



6

青函コラボスイーツ「青函プリン」 …昭和製菓(函館市)

青森県産りんごと道南産の牛乳を使用した商品。



7

函館しじみラーメン …日の出製麺(北斗市)

檜山産の小麦を使った麺、青森産しじみ、田子産にんにくのパウダー・エキスを使用した商品。



8

脇屋シェフのにんにく醤油 …服部醸造(八雲町)

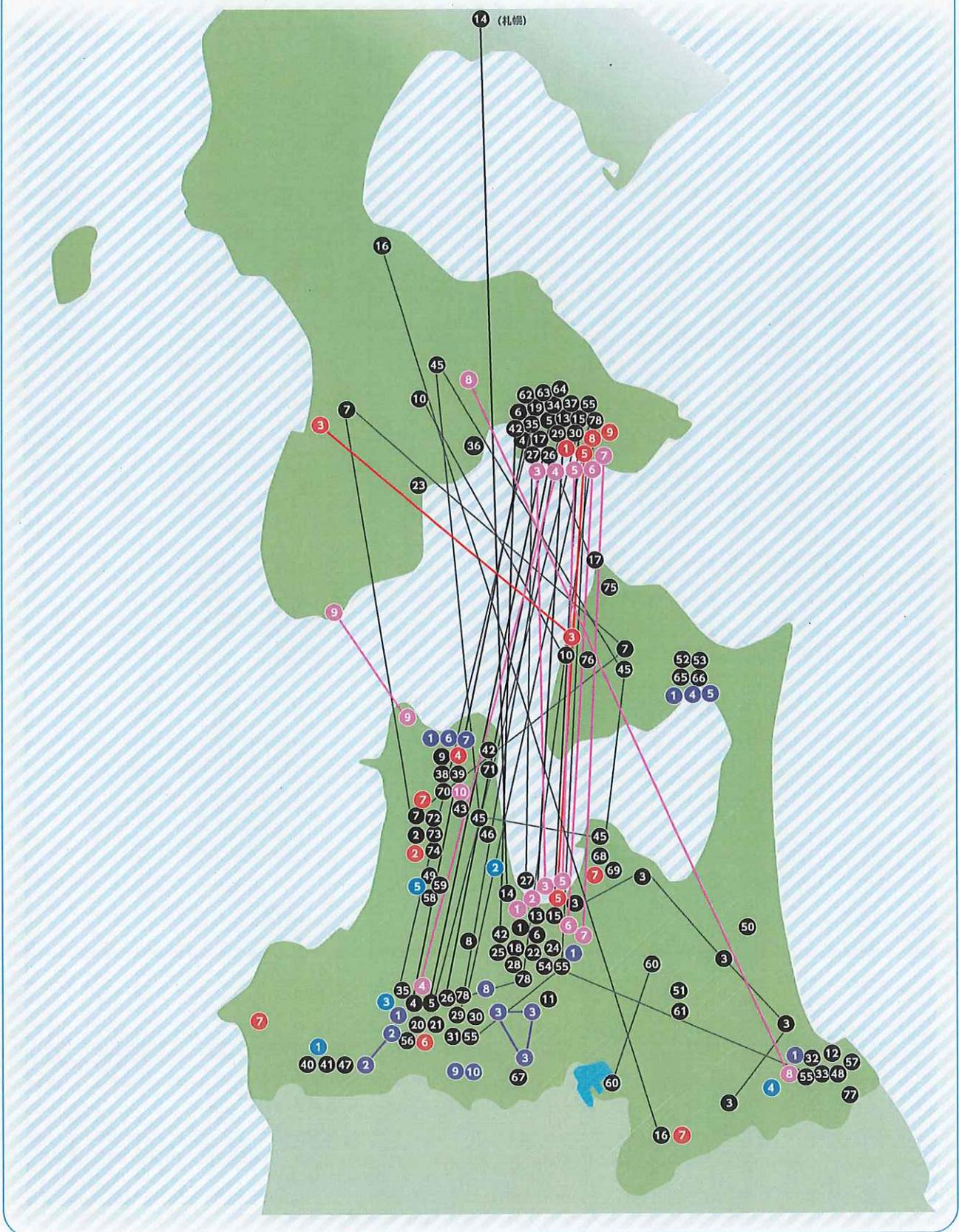
青森県産の乾燥にんにくを詰めた瓶に本醸造醤油を注いで香りを移した商品。



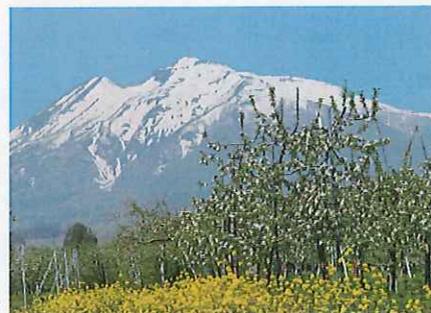
(参考) 津軽海峡交流圏形成に関連する主な取組事例

地図上の丸印は「λ(ラムダ)プロジェクトに関する提案2015」(提案集)に掲載されている取組が行われている場所を示しており、線で結ばれているものは2地域以上で連携した取組が行われていることを示しています。取組事例の項目は次ページ以降に掲載しています。

【平成27年度の実施事例】 ● ラムダ作戦会議関係 ● 企業・団体等 ● 県 ● 市町村
 【平成26年度までの実施事例】 ●



平成27年度の取組事例



区分	地図	タイトル
津軽海峡交流圏 ラムダ作戦会議	①	「津軽海峡交流圏公開生バトルIN函館」を函館市内で開催 「(仮称)ラムダカフェ」設置の検討
		λ(ラムダ)プロジェクトシンボルキャラクター「マギユロウ」誕生!
津軽海峡交流圏 ラムダ作戦会議委員	②	奥津軽 明日はひとつになろう!
	③	津軽海峡でつながる 文化・芸能交流(北海道江差町と青森県佐井村)
	④	ABA「りんご娘の産地直送☆青森最高!」の放送、A-streamへの出演
	⑤	NHK「青函ラジオ〜津軽海峡・春景色2015〜」
	⑥	奥津軽いまべつ駅応援メッセージ
	⑦	青森県の新・ご当地グルメが続々デビュー!
	⑧	「新幹線ドミノ大会」への参加
	⑨	HAKODATEアカデミックリング2014への参加
	企業・団体等	①
②		「あおもり×はこだてマルシェ」の開催
③		青森商工会議所、函館商工会議所による会員事務所パートナーシップ構築懇談会の開催
④		HAKODATE男爵倶楽部HOTEL&RESORTS(函館市)が白神酒造(弘前市)と共同開発した日本酒を発売
⑤		東奥日報と北海道新聞による共同連載
⑥		青森公立大学、公立はこだて未来大学による学術交流協定の締結
⑦		函館大学、函館商業高等学校、青森商業高等学校による土産品開発に向けたワークショップの開催
⑧		吉田屋(八戸市)が北斗市観光交流センターの軽飲食店舗の運営業者に選定
⑨		あおもり松前街道推進協議会によるイベント
⑩		A-project(青森公立大学の学生団体)による「今別レポート」の提案
行政(県)		λ(ラムダ)プロジェクト加速化事業
		北海道新幹線開業カウントダウン事業
		青い森鉄道が運ぶ沿線魅力戦略事業
	①	白神体感自然歩道整備事業
		食品工場生産性改善普及事業
		青森の食のコミュニティ展開事業
		グリーン・ツーリズム新規需要創出事業
		青森県・函館デスティネーションキャンペーン推進事業
		青函広域観光連携事業
		青函圏サイクル・ツーリズム推進事業
		東南アジア誘客促進事業
		次世代自動車活用促進事業
	②	東青地域アクティビティ推進事業
	③	雪を逆手に冬を楽しむ中南観光推進事業
	④	三八地域ぐれっとめぐる広域観光事業
	⑤	西北地域「おもてなし力」パワーアップ事業
	行政(市町村)	①
②		白神山地活性化実行委員会事業
③		津軽南地域誘客拡大プロモーション事業
④		あおもり10市大祭典inむつ
⑤		下北半島地域広域パンフレット作成
⑥		奥津軽いまべつ駅開業PRキャラバン事業
⑦		情報発信強化事業
⑧		更なる交流人口獲得のための藤崎町観光コンテンツ整備事業
⑨		みんなが集う大鰐温泉駅リニューアル事業
⑩		おもてなし足湯整備事業

平成26年度までの取組事例



区分	地 図	タイトル	
津軽海峡交流圏 ラムダ作戦会議	①	「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議 ～北海道新幹線開業まであと2年～ 津軽海峡交流圏を盛り上げよう！」を青森市内で開催	
		「津軽海峡マグロ女子会」が発足	
	②	「奥津軽トレイル」の開発	
	③	青い森鉄道のプロモーション	
	④	弘前路地裏探偵団が函館市の探偵団にのれん分け	
	⑤	学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムとキャンパス・コンソーシアム函館が連携	
	⑥	青函の旅行商品の造成	
		λ(ラムダ)プロジェクトシンボルキャラクターの制作	
	津軽海峡交流圏 ラムダ作戦会議委員	⑦	下北・津軽・槍山のひば連携
		⑧	「津軽でつながる半島のじかん」の開催
		⑨	奥津軽「駅からサイクリング」お試しツアーの開催
		⑩	佐井村と道南地域との交流・連携を目的とした観光モデルコースの検討
⑪		自然を生かした遊びづくり	
⑪		マタギをテーマとした資料館をオープン	
⑫		着地型体験ツアー等の造成	
		県産ひば材を使った青い森鉄道のキャラクター・モーリーグッズの作成	
⑬		青森商工会議所・函館商工会議所によるパートナーシップ支援	
⑭		北洋銀行・青森銀行の連携	
⑮		みちのく銀行・弘前商工会議所・函館商工会議所による「津軽海峡観光クラスター会議」の設立	
企業・団体等		⑮	みちのく銀行による「津軽海峡食景色 青森・函館商談会」の開催
		北海道銀行・東北地銀10銀行の業務提携を締結	
	⑯	服部醸造(八雲町)が青森県産の乾燥にんにくを使用した「協屋シェフのにんにく醤油」を製造・発売	
	⑰	大間・函館航路に新造船「大函丸」就航	
	⑱	青森地域社会研究所が「月刊れびおん青森」で特集「新時代における津軽海峡交流圏」を展開	
	⑲	東洋社(青森市)が函館市に開設した函館営業所での業務を開始	
	⑳	ラグノオささき(弘前市)が、函館市の金森商船のプライベートブランドとして「金森レンガ倉庫のキャラメルガトー」を製造	
	㉑	道南産の復刻米「マツマエ」を使って六花酒造(弘前市)が特別純米酒「ガスバリ」を醸造	
	㉒	三浦醸造(青森市)が「青森りんごとマスカルポーネのフルーツスープ」を製造・販売	
	㉓	瑠璃(木古内町)があおもりシールドと木古内産はこだて和牛料理のコラボメニューを販売開始	
	㉔	函館市のパン・洋菓子製造「パン・エスポワール」が青森市に進出	
	㉔	青森銀行、北洋銀行、アークス、新日本スーパーマーケット協会が青函活性化支援で合意	
	㉕	津軽海峡ブランド博の開催	
	㉖	北星交通(弘前市)と函館タクシー(函館市)の連携 (仮称)青森県・函館デスティネーションキャンペーンの開催決定	
	㉗	青森・函館航路に新造船「はやぶさ」「ブルーマーメイド」が就航	
	㉘	青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」が販売開始	
	㉙	FMアップルウェーブ(弘前市)とFMいるか(函館市)の共同企画実施	
	㉚	FMいるか(函館市)と弘前のホテルで働くさくらレディー(弘前市旅館ホテル組合)との連携	
	㉛	「街あるきガイドひろさき2014」に函館の情報を掲載	
	㉜	はちのへ観光復興委員会による旅行商品等の開発	
	㉝	三圏域連携懇談会による北海道からの誘客促進	
	㉞	青森銀行、北洋銀行が連携し官民連携ファンドである「青函活性化ファンド」を設立	
	㉟	昭和製菓(函館市)青函コラボスイーツ「青函プリン」を製造・販売	
	㊱	函館西部地区バル実行委員会が「弘前バル街」に合わせて青森県を訪ねるツアーを企画	
	青森県サイクル・ツーリズム推進協議会の設立		
㊲	日の出製麺(北斗市)が青森と函館のツインシティ提携25周年を記念した「函館しじみラーメン」を製造・販売		

区分	地図	タイトル
行政(県)	37	道南の生徒への青森の魅力発信事業 青森県基本計画「青森ブランド」普及促進事業
	38	北海道新幹線「奥津軽駅」開業プロモーション事業
	39	「奥津軽駅」二次交通等整備促進事業 津軽海峡交流圏フリーパス構築事業 λ(ラムダ)プロジェクト推進事業 つながる県民プロジェクト事業 縄文ムーブメント拡大事業 「あおもりポテンシャルビュー」構築事業 青い森鉄道新需要創造事業
	40	白神山地21年目からの保全と活用推進プロジェクト事業
	41	白神山地エコツーリズム資源可能性調査事業 青森県特別保証融資資金制度貸付金「未来を変える挑戦資金」 新幹線開業効果活用型地域産業創出事業 青函連携「食と観光」タイアップキャンペーン事業 観光おもてなしブラッシュアップ事業 観光マインドアップ事業 青森県・函館誘客促進プロモーション事業 東アジア・ASEAN向け情報番組制作事業 青函広域観光推進事業 青函サイクル・ツーリズム魅力発信事業
	42	アレコ青函ソウル共感力創造事業
	43	北海道新幹線「奥津軽駅」開業に向けた戦略展開事業
	44	北海道新幹線「奥津軽駅」開業効果に向けた観光拠点化モデル事業
	45	道南と津軽・夏泊・下北半島との連携促進事業
	46	上磯地域のグリーン・ブルー・ツーリズム促進支援事業
	47	白神の食めぐり観光促進事業
	48	三陸復興国立公園の新たな魅力発信事業
	49	北海道新幹線開業に向けた津軽半島北部エリア観光推進事業
	50	体感する小川原湖推進事業
	51	道南からの上北地域誘客促進事業
	52	下北「海の道」魅力発信事業
	53	台湾から来さまい下北推進事業
	54	津軽海峡ブランド博開催事業
	55	青函圏観光都市会議
	56	北海道新幹線新函館開業対策事業
	57	種差海岸らくらくサイクル事業
	58	五所川原まるとPRキャラバン事業
	59	津軽半島地域活性化促進事業
	60	七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業
	61	十和田地産品PR活動隊
	62	函館グルメサーカスへの参加(三沢市)
	63	旅行エージェントへのプロモーション
	64	函館・東北チャリティプロモーションへの参加
	65	下北半島観光フォトスポットPR事業
	66	むつ市夜景観光推進事業
	67	平川市誘客促進助成金事業
	68	夏泊半島ブルーロードライド
	69	ハクチョウのまち再生
	70	まるとPRキャラバン事業
	71	道の駅たいらだて「Oh!だいたい」周辺散策マップ配布
	72	北海道新幹線開業対策津軽半島連携事業
	73	北海道新幹線開業対策にぎわう駅ナカビジネス創造事業
74	北海道新幹線開業対策徐福来町伝説・津軽海峡連携PR事業	
62	函館グルメサーカスへの参加(七戸町)	
75	観光客誘客促進による地域活性化推進事業	
76	圏域内ネットワーク強化によるゴールデンルート構築事業	
77	町内巡回バス運行事業	



青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議事務局

青森県企画政策部交通政策課新幹線グループ

〒030-8570 青森県青森市長島1-1-1 電話 017-734-9152

ホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kikaku/kotsu/ramudasakusenkaigi.html>

